



コミュニティ しずおか

2017
7月
No.147



まちの原風景を後世に残す

御前埼灯台を守る会
(御前崎市)

▼平成11年、御前埼灯台は、明治7年から駐在していた灯台守が廃止され無人化となった。稼働しているとはいえ、いつの日かは解体される危機感を感じ、平成18年に「灯台を地域の宝として保存し地域活性に活かそう」と灯台好きが集まり会を発足した。

▼灯台は観光だけでなく教育文化面にも深くかかわると、会員が写真や建設当時の遺物などの資料を苦労して集め、手作りの特設資料館を管理者の清水海上保安部から許可を取り開設。毎週日曜日、会員が2人1組となり当番制で灯台愛溢れる案内を行っており、全国からも訪れる灯台ファンとの交流を楽しんでいる。また、灯台に親しみを持ってもらおうと年3回の灯台開放イベントを清水海上保安部と一緒に開催している。

▼「灯台がある。その日常の風景を失いたくない」と齋藤代表。目指すは常設資料館を作ること！灯台自体を資料館にし、後世に残していきたいと常設に向けて動いている。

◇代表：齋藤正敏さん(問合せ・0548-63-4307)

【情報提供・川口まさ江】

Topics トピックス

クローズアップP2

お祭りの場を活用した子どもの
自由な発想・居場所づくり(沼津市)

地域訪問記P6

健康長寿
目指して!イチ・ニイ・サン!(浜松市)



のりづき・りえ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。

クローズアップ



お祭りの場を活用した 子どもの自由な発想・居場所づくり

沼津市

～子ども短歌・俳句大会～

夢倶楽部あしたか

沼津市の西北部の緑鮮やかな茶畑が広がる愛鷹（あしたか）地区センターを訪ねた。この地区センターは、元小学校の跡地を活用しており様々なイベントがこのグラウンドを利用して行われている。

コミュニティカレッジの修了者でつくる「夢倶楽部あしたか」は、平成の年代を共に歩みつつ、今も週1回の活動を基点に、地域を支え活気づける取り組みをすすめている。今回、その中でも平成22年から始まったとっておきなユニークな活動をご紹介します。

子どものためになることを

愛鷹コミュニティの縁の下のかもちとして日々活動し

ている夢倶楽部あしたかは、7年前から地区のお祭りで、「子ども短歌・俳句大会」を担当している。きっかけは地区から「愛鷹コミュニティ祭りの30周年記念事業で子ども対象の催し物をやって欲しい」との依頼だった。

かねて、子どもの祭りへの関わり方に疑問を持っていたこともあり、物を買ったり飲食するだけの参加ではなく、俳句や短歌で季節や自分の心情を自分の言葉で表現したら、心が豊かになり切れやすさを防ぐなど心の成長につながることを願っての企画だった。子どもたちが受け入れてくれるのが不安だったが、費用も時間も無いので、紙と鉛筆があればできるだろうとやってみることに…。

思春期の表現の場に

開催前には、小学校を通じてチラシを配布。会場の一角のテントに机とイス、一句（一首）作るともらえる駄菓子も用意して、運命の日がやって来た。

鉛筆を握りしめ、色とりどりの短冊とにらめっこする子どもたち。友だち同士で教え合ったり、見せ合ったりと盛り上がり。熱心な大人に連れてこられる子もいれば、一緒に四苦八苦するお父さんの姿。出来るまで1時間近く粘る子もいた。できあがった短冊は、テントの周りに掲示して来場者にも見ていただいた。

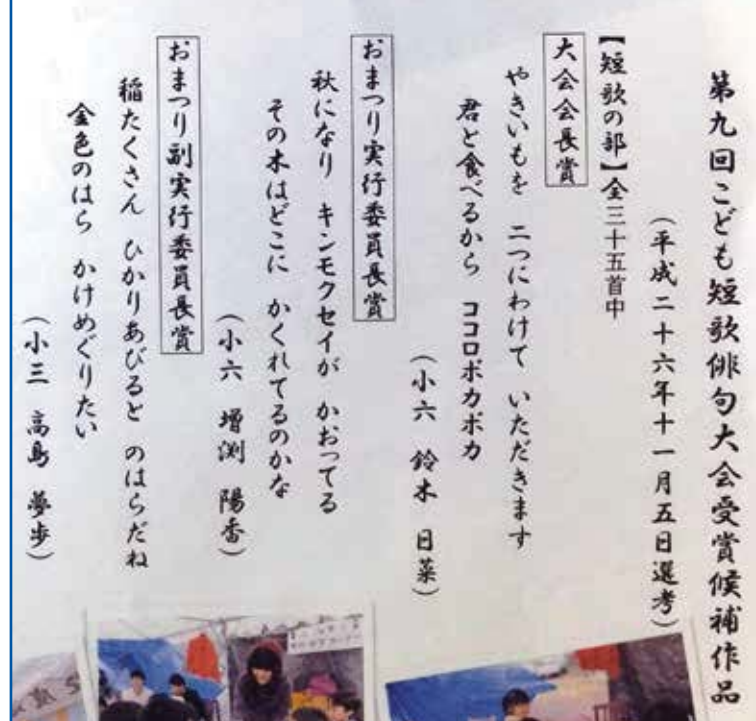
何より収穫だったのは、男子中学生に受け入れられたことであった。内面をだすことに一番遠くにいそうな年齢の子たちが、受験や恋や部活について表現をし、指を折りながらじっくりと考える姿は、お祭り会場の中でユニークな場をつくることとなり、知的な遊びを楽しむ場にしたいという目標は見事に達成され安堵感が広がった。



喧騒の中自分の世界に入る女の子

継続は文化

その場に掲示された後、地区コミュニティの会長らが優秀賞を選考、後日学校を通じて賞状と記念品を授与してもらった。めでたし、めでたし。これにて一件落着。ところが地区からは「これからも続けて!愛鷹の文化になっていくから頑張って」との思いがけない言葉をもらった。会員2名が主になって行ったが、短歌・俳句づくりに勤しんでいるわけでもなく、手探りのようなスタートであったが、子どもたちの笑顔や反応に手ごたえを感じたことも手伝って継続することを決めた。



「選考は毎回悩めます」と会長

よりよきものに

以来年2回、夏の納涼祭と秋のコミュニティ祭りの定番として愛鷹地区独自の「こども短歌・俳句大会」が定着している。中学生、高校生になっても立ち寄って短歌・俳句を作っていく常連さんもあらわれた。中には、顔見知りになった二人に相談を持ちかける子どもが現れ、「心のつながりにもなっている」と嬉しそうに萩谷さん、大嶋さんは言う。

お手伝いに来てくれた役員さんからは、「地域の子は地域で育てることのきっかけにも役立っている」と声をかけられたとのこと。毎年の子どもの成長を実感できる場、地域の大人とつながる居場所として、地域の文化を今後もつなげていってほしいと感じた。

◇代表:萩谷 恵さん
(問合せ・090-5101-5969)



取材時の様子、左から小野会長、萩谷さん、大嶋さん

レポート・高村 光 編集委員



まちからむらから



東伊豆町

町の活気のお手伝い

熱川道灌太鼓・
ちびっ子太鼓



昭和53年からの音を引き継ぎ打ち鳴らす

▼昭和53年に熱川温泉観光協会の若者を中心に、観光客に喜んでもらえるのは何かと思案し、東京から指導者を招いて道灌太鼓が始まった。会員は15人。その内6人は小中学生で、太鼓を通じて子どもたちの心技体の向上を見守っている。

▼42年の歴史の中には、練習場が確保できない時期があり休止した時もあったが、イベントには出演し続け太鼓の音を途絶えさせずきた。現在、東伊豆町内や近隣市町のイベントに年間10回以上出演し、町の活気に一役買っている。

▼かつて東伊豆町には複数の太鼓団体があったが今では当会だけとなった。郷土芸能の保存継承の面から、イベント時には子どもを対象に太鼓教室を開くなど普及活動に頑張っている。積極的に町の盛り上げ役を担い、この音を絶やさないため、存在をアピールしていきたい。

※7月22日熱川の「海上花火」でバチさばきを披露します！

◇代表：梅原吉男さん(問合せ・0557-23-1481)

【情報提供・鈴木邦夫】

西伊豆町

笑顔の花咲くお花見会

浦上地藏花の会



第1回目は、浦上地藏尊前で開催した

▼桜が咲き始めたころ、安良里地区で「第2回お花見の会」が開催された。西伊豆町は高齢化率が県下一。高齢者は桜祭りがあっても、距離があると参加できない。そこで安良里港を見守る浦上地藏尊と周辺の花壇や樹木の植栽・管理をしながら活気のある地域にしたいと活動している団体「浦上地藏花の会」が、地域住民が歩いて行ける場所、天気が良く桜の花が咲いて皆が眺め、充分に楽しめる日にやりたいと桜祭りを計画した。

▼今年は天候が悪く公民館での開催になったが、豚汁などの無料サービス、無償提供された賞品ありの輪投げ大会など催され、子どもから老人まで100人以上が訪れ大勢が楽しんだ。狭い地域ならではの祭り、普段会えない人々と懐かしそうに話をする人の笑顔が印象的だった。

会では、正月飾り作りをしながら、皆でおしゃべり出来る場も作っている。これからも、楽しみながら活気ある地域にしていきたい。

◇代表：鈴木由紀子さん(問合せ・0558-52-0816)

【情報提供・藤井節子】

静岡市

自然とふれあえる里山の再生をめざして！

NPO法人
浅間山再生プロジェクト



元ガキ大将たちで楽しくやっている。参加者募集中！

▼「身近な里山を自然とふれあえる憩いの場にしたい」と葵区井宮町を中心とした有志が集まり、平成22年から静岡浅間神社の西側に広がる斜面で、自然環境保全活動等に取組んでいる。

浅間山は、会員たちが「ガキ大将」の頃、ミカン畑や茶畑が広がる遊び場であったが次第に放置され、孟宗竹が生い茂り昔の面影は無くなっていた。そこで放置竹林約32,000本を伐採し、桜約500本と広葉樹約300本を地域の協力を得ながら植樹したところ、春には河津ザクラなど可憐な花々が彩る斜面となった。

▼植樹以外にも、崩落土砂の除去や中学生との清掃活動、子どもを対象にした竹製の遊具づくり、井宮町七夕祭り手伝いなど、地域住民と密着した活動も行っている。平均年齢70歳、手弁当で大変な時もあるが何でも話せる仲間と楽しんで、皆様に愛される里山づくりを目指していく。

◇理事長：赤石文男さん(問合せ・054-272-2389(事務局 内藤))

【情報提供・工藤真理子】



島田市

暮らしに張り合い、おじいちゃんバンド

東川根上ギター愛好会



お揃いの帽子でカッコ良くキメてギターを奏でる

▼島田市内から北へ4キロに位置する伊太地区に東川根上町内会がある。公会堂改築するにあたり、何か地域活動を始めようと考えたところ、ギター指導できる松野氏を中心に男性7人、平均年齢73歳のおじいちゃんバンドが平成26年に誕生した。

その内4人は、ギターを手にしたこともない素人だったが、練習を重ねた結果、多い月は、5、6回介護関連施設で演奏披露している。歌いながら演奏するのは結構疲れるが、小休憩を兼ねたプレゼント付きの曲当て演奏を設けるなど高齢者バンドならではの工夫をしながら楽しんでいる。

▼おなじみの昭和歌謡曲や自分たちで歌詞作曲した曲を演奏するなど、レパートリーも増えた。定年退職後ギターの腕を磨いて地域でボランティア活動することで、地域でのつながりができ、張り合いのある第二の人生を送っている。

◇代表：松野 進さん(問合せ・0547-34-2050)

【情報提供・池田 弘】

掛川市

おもしろグラウンドゴルフ

ポッポ屋原谷会



一筋縄ではいかないコースばかり

▼「楽しく笑ってスポーツができる健康長寿」を目的に、原野谷川の河川敷に10ホールのグラウンドゴルフ場を作り、週1回3時間程度楽しんでいる。

▼当会のグラウンドゴルフ場は、他とは少し違って「石と石の間を抜けてホールイン」「タイヤを埋め込んで通過してセーフ」「小高く土を盛った上にホールを作る」など、工夫を凝らし面白いコースに仕上げてあり、いつもみんなで笑って大きな声で賑やかにプレーを楽しめるという特徴がある。

また、会員以外にも笑ってもらうため年5回ほど地域のクラブと交流試合を楽しんでいる。

▼笑いはストレスを解消し、病気を遠ざけると言われている。ゴルフで健康寿命を延ばし、ポッポ屋の活動を長く続けていきたい。誰でも参加OKなので、楽しく笑ってプレーしてみませんか？

◇代表：山崎智行さん(問合せ・090-2130-9308)

【情報提供・柴田清一】

地域活動情報

詳細はホームページでご覧になれます(URL <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣旨・目的	月 日
1	松崎町	鮎のつかみどり体験	一般財団法人 松崎町振興公社	「自然とのふれあい」をテーマに、各世代が一緒に思い出のひと時を楽しむ	7月下旬～8月20日頃まで 毎年開催
2	三島市	富士山噴火で避難されていた農民の思いを引き継ぐ	梅名郷土史研究会	史跡を通じて梅名の歴史を伝えたい。	月 1回 雑草取りは随時
3	三島市	地域に飛び出す中学生	中郷西中学校	子どもたちが生きぬくための教育	通年
4	御殿場市	椿の挿し木と鉢替え講座	御殿場椿の会	市民と共に椿を見直し育てていく。	平成29年7月9日(日)
5	沼津市	心をひとつに、合わせて打とう 雁作太鼓	白隠太鼓	和太鼓を通じて達成の喜びと地域で育てられていることを感じてもらう。	練習 週 1回
6	島田市金谷	牧之原公園に賑わいの創設	牧之原公園の魅力ひきだし隊	地域の財産である公園に賑わいを創生して活性化を図る。	平成29年5月6日(土) 10:00～15:00
7	牧之原市	ラジオ体操で元気な心と身体づくり	金木犀の会	体力づくりや昔の縁側的な居場所づくり。	毎朝 8:30～
8	川根本町	川根の自然と人々はいつでも皆さんを歓迎します	一般社団法人エコティかわね	自然資源を活かした地域観光業の推進と地域の活性化。	随時開催
9	磐田市	屋台が作った地域の“団結力”	ねりきち会	祭り屋台導入で地域の結束と住民活性化	平成29年10月14、15日 年 1回



健康長寿 目指して!イチ・ニイ・サン!

中条ラジオ体操会 (浜松市浜北区)

浜松市浜北区中条地区は旧浜北市の畑が点在する住宅地だ。毎朝、6時を過ぎると地区の皆さんが徒歩や自転車で氏神さまである須賀神社に集まってくる。早朝に地区の皆さんが集まるのは旧浜北市時代から続くラジオ体操をするためだ。訪問した5月末は天気にも恵まれ、25人程の方が参加され朝の清々しい空気を満喫していた。

浜北区は全国にも誇れるラジオ体操普及率日本一の土地。神社や公民館などいたるところに「ラジオ体操会場」の看板がある。中でも中条地区の「中条ラジオ体操会」は旧浜北市時代から30年続く老舗中の老舗だ。なぜ、ラジオ体操がこうも盛んになったのか皆さんに尋ねてみた。事の起こりは昭和60年全国夏期巡回ラジオ体操会が旧浜北市で行われたことだ。これを契機に浜北市ラジオ体操連盟が発足し旧浜北市内に広がった。昭和62年には中条会場が開設された。



気持ち良い1日が始まる

70代はまだ小僧

中条ラジオ体操会は会員36人、平均年齢は80歳を超えている。開設と同時にラジオ体操を始められた岡本さんは御年89歳。1万回の参加達成を成し遂げられて「現在の目標は1万5000回」とのことだ。矍鑠としたお姿は「ラジオ体操のたまもの」とおっしゃるとおり、背筋がピンとはつらつとしたお声は永遠の青年といったところだ。

会の和気あいあいとした雰囲気は、他の地区からもわざわざ参加する会員もいるほどで、ウォーキングの延長

線で毎日通う女性は「やらないと調子が悪く1日が始まらない」と、雨の日は拝殿の軒下でやるほどで、ラジオ体操が生活の一部となっているようだ。

86歳の男性は「一人暮らしだがラジオ体操に来れば皆と話すことができて楽しい」など、会員同士の見守り活動の一端を担っているのだ。

3年やるとヤミツキに!

活動を長続きさせる秘訣を教えてくださいとまずは続けることが大事とのこと。大人であってもご褒美は嬉しいもので毎朝、出席カードにハンコを押してもらい、300回・500回・1000回…と回数を重ねるとメダルや賞状・バッジが授与され、継続の励みになっている。

現在、浜北区の44会場にラジオ体操会があり、全地域をあげてラジオ体操を盛り上げている様子だが、昨今、会員数が減少気味なのが悩みの種でもある。ご夫婦で参加されている現会長の杉山さんは、このラジオ体操会を続けていくために回覧板や声掛けを行って地道に会員を増やす活動をされていた。

今後は定年した人や若い人にも参加してもらい健康長寿で明るい地域社会を目指している。

参加者の生き生きとした姿を拝見し、是非ともラジオ体操と健康長寿の因果関係を行政とコラボして検証していただきたいものだ。

◇代表:杉山要一さん(問合せ・053-587-5670)

【情報提供・佐藤勝彦】



取材協力いただいた

左から鈴木さん、伊東さん、杉山さん、岡村さん、杉山さん、池沼さん、高林さん



レポート:中村弘美 編集委員

新デザイン記念!..... 特別寄稿 前編

『第二の人生の時間を有効に』

地域デザイン研究所コミ推協推進専門委員
望月誠一郎氏



「興津川保全市民会議」に所属し
活動する筆者(中央)

人の生死と時間の進行速度は全ての人に平等です

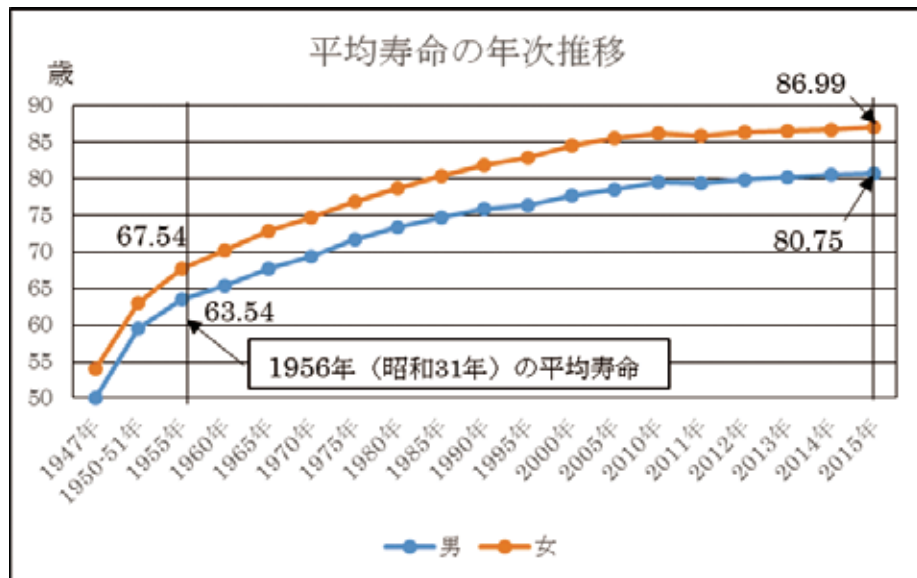
生まれた生物はいつか死を迎えること、そして、1秒、1分、1時間と進む時間の速度は、全ての人に平等で幾らお金持ちでも変えることはできません。ですが、その時間の生涯における使い方は一人一人異なり、決して同じ人はいません。今回は、現代人に与えられた第二の人生の長い時間をあなたならどの様に使い、生きますかという話です。

高齢者が65歳と定義されたのは60年前・・・今なら80歳以上が適当では！

国連が65歳以上の割合が7%以上となった場合を「高齢化した人口」と定義づけたのは、1956年(昭和31年)と60年前のことです。それ以後、65歳という年齢が基準として使用されてきており、2015年(平成27年)の65歳以上の日本の総人口に占める割合は26.7%で、超高齢化社会と騒がれています。一方、総人口の7%の基準で見ると、2012年(平成24年)が80歳以上の人口が占める割合が丁度7.0%でした。日本人の平均寿命の面からみても昭和31年頃が65歳ほどであったのに対し、2015年(平成25年)では、男性80.75歳、女性86.99歳と、世界でもトップレベルの長寿国となっており、男女とも80歳以上が「高齢化した人口」に該当します。

「日常生活に制限のない期間」と定義される健康寿命も延びており、「80歳以上が高齢者」というのが適当のように思います。私もその年齢になったらお祝いして欲しいですね。

日本人の平均寿命の推移



(H25静岡県健康寿命)
←女75.61歳
←男72.13歳

推移
資料:厚生労働省
平均寿命の
年次別推移

60歳定年から80歳まで、自分で使える時間は約6万時間・・・現役33年間

もし、60歳でリタイアし、その後毎日8時間を80歳まで自分のために時間を使えるとしたら、約6万時間となります。これを1日8時間(年260日)の労働時間に換算すると1年間2080時間となり約30年間に該当します。まさに第二の人生というべき長い時間があり、この自分時間の有効な使い方を意識することは重要なことです。

特に、これから第二の人生を迎える人に言いたいことは、趣味、ボランティア、学習、仕事など、第二の人生を順調にスタートするには、その準備期間が必要だということです。

私は、健康的に、元気に楽しくその時間を使う方法の一つとして、地域の仲間とともに地域貢献をする地域のコミュニティ活動への参加をお勧めします。



コミュニティ活動集団15集団を指定

平成29年度の「コミュニティ活動集団」は、次の15集団を指定しました。地域で新しいコミュニティの風を巻き起こすような活動を期待します。

下田ボランティアガイド協会（下田市）歩いてみませんか開国のまち下田
千福が丘アートサロン（裾野市）地域の文化と福祉に貢献

第三地区コミュニティ推進委員会（沼津市）生き活きた町づくり

いはらの川再生PJ会（静岡市清水区）

ニホンウナギの保護再生活動を通じ優れた河川環境を残そう

中田・馬淵女性防災ネット（静岡市駿河区）

「わたしたちの防災」女性目線で防災参加

宇津ノ谷倶楽部（静岡市駿河区）宇津ノ谷地域の活性化

下当間ふれあいサロン 一五の会（藤枝市）

いつまでも仲良く「住んで良かった下当間」

港地域づくり推進会（焼津市）誰が担う？つながる地域、支え合う地域

牧之原公園マルシェ実行委員会（島田市）金谷をもっと元気に！

スリーハートクラブ（菊川市）

地域に尽くす、人に尽くす、自分に尽くす活動

ママバトン（掛川市）ものも、気持ちも、次のママへ

大好き御前崎（御前崎市）大好きな御前崎をもっと大好きに！

ねりきち会（磐田市）祭り屋台導入で地域の結束と住民活性化

若宮太鼓 一心会（浜松市北区）次世代への郷土芸能の伝承

畑人（ハルサー）（浜松市東区）子どもたちのための「土育」

編集委員を 紹介します

本年度の本誌編集委員の皆様を紹介します。（敬称略）

- ・大澤由紀子（くらし楽しいクリエイター・本会推進専門委員）
- ・鈴木朝子（県広報協会常任理事兼事務局長）
- ・高村 光（コミ修了者・沼津市）
- ・中村弘美（コミ修了者・掛川市）
- ・石川晴子（県地域振興課主査）



7月18日(火) 同時発売!

2017年市町村振興宝くじ 発売期間:7月18日(火)~8月10日(木)
抽せん日:8月20日(日)
一般財団法人 全国市町村振興協会 この宝くじの収益金は市町村の発展に役立ちます。 抽せん300円

編集・発行

地域情報を
お寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階 [TEL] 054-251-3585 [FAX] 054-250-8681
[URL] <http://www.sizcom.jp> [E-mail] sizucom0829@po.across.or.jp